

富士フイルムホールディングス株式会社
2021年3月期 年度決算説明会
主な質疑応答

Q: バイオ CDMO 事業が好調であったが、当社が顧客から委託先として選ばれている理由を教えてください。

A: バイオ CDMO 事業は 2020 年度の売上高 1,000 億円の目標を過達。当社の技術力とトラックレコードが他社との差別化ポイントである。写真の製造技術をベースとした優れた生産技術に基づく高い収率・スピーディーな生産が可能なおことに加え、品質の安定も強みである。この技術力をバックボーンとして、トラックレコードを積み重ねることで、顧客からの委託を獲得出来ている。

Q: ドキュメント ソリューションについて、オフィス市場における、プリントボリュームの見方を教えてください。

A: 第 4 四半期では、対前年 90%程度まで回復している。今後、新型コロナウイルス感染症向けのワクチンが行き渡れば、95%程度まで回復すると見ている。

Q: 半導体不足による影響を教えてください。

A: 現時点で業績への大きな影響はない。いち早く調達面での対策を取るとともに、製品によって、設計変更を通して汎用材料が使えるよう、対応を取ってきた。ただし、半導体の供給がタイトであることは間違いのないため、今後の市場動向を注視していく。

以上